

大学入試の基礎知識 vol.11 【私立大学専願、共通テストを受けるべき？】

国公立大学を受けず私立大学のみを受ける「専願組」の場合、共通テストを受けるべきでしょうか？結論から言えば、可能なら受けるほうがいいでしょう。その理由と受験する場合の注意点を述べていきたいと思います。

共通テスト利用での入試

私立大学の一般選抜では各大学の個別入試を受けるイメージが強いかもしれませんが、しかし、共通テストの点数を提出すると合否判定をしてくれる「共通テスト利用型」の入試があります。2023年4月時点で私立大学は実に607校もあります。そのうち約9割で共通テスト利用による入試を実施しています。



チャンスが広がる

当然ですが入試を受ける回数を増やせば合格するチャンスが広がります。

共通テスト利用入試では、私立大学に行って入試を受ける必要がありません。何校もの過去問を解いて対策をする必要もありませんし、緊張の中本番を迎えるといったこともなくなります。どの大学、学部を受験するのかスケジュールを考える必要はありません。実際に受験できる回数には限りがありますが、共通テスト利用だと受けたい大学・学部のすべてに出願することも可能です。もちろん受験料は必要ですが…

浪人を避ける

私立大学では2月初旬を中心に一般選抜が実施されますが、3月に入って「後期入試」という名称で入試が実施されます。ここでも共通テストを利用しての選抜が目立ちます。

保護者世代では浪人が珍しくありませんでした。しかし、現在では浪人する生徒の数がかなり減っています。

しかし入試があることですから、思うように合格を勝ち取れないかもしれません。そんな場合に共通テストを受けていると何とか浪人を避けられる可能性が高くなってきます。

共通テスト利用の注意点①

以前のセンター試験ではオーソドックスで基礎的な問題が多く、学力に関わらず取り組みやすい感じでした。共通テストになり、問題はかなり難化しています。文字数が多く、処理スピードも求められます。ある程度の対策をしないとあったような得点を取るのには難しいでしょう。

共通テスト利用の注意点②

個別試験の対策をしなくても受けられる、前述のようにチャンスが広がるということで、いわゆる滑り止めで出願する受験生も多くなります。例えば関関同立や産近甲龍では国公立大学を希望する受験生が多く出願してきます。つまり一般選抜より共通テスト利用のほうが合格ラインが高くなる場合が多くなるということです。

共通テスト利用の注意点③

一般選抜での入試科目と共通テスト利用の入試科目が違うといったことが、たまにあります。受験を希望する大学・学部の募集要項を早い目にチェックしておきましょう。